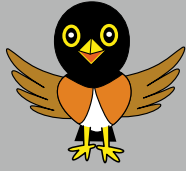


こっこめ通信 03 2017

「海鳥ってどんな鳥？」号



八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて「こっこめ」とよびます。

海鳥という言葉には厳密に定義はありませんが、広辞苑によると「カモメ・グンカンドリなどもっぱら海洋で生活する鳥。海上を飛翔したり海面に浮遊したりしている鳥を漠然と指すことが多い」とされています。繁殖する時は陸に上がりますが、1年の大半は海上で暮らす鳥と考えればいいのでしょうか？そう考えるとたくさんの種類がいますね。東京の竹芝桟橋から三宅島・御蔵島・八丈島への定期船に乗るといろいろな海鳥が観察できます。2014年から就航している橘丸はとても快適な船です。時間に余裕がある人は、往復の船旅も楽しいですよ。

さて、今回はそんな海鳥関連の「八丈小島のクロアシアホウドリの様子」「講演会『西之島☆噴火始末記』」「シロエリオオハムは初記録！」についてのお話です。

八丈小島のクロアシアホウドリの様子

2013年4月に八丈小島へ降り立っているクロアシアホウドリが確認されたのが始まりでした。翌シーズン(2013秋-2014春)には2ペアの産卵が確認されるも大型の猛禽に襲われる？という悲劇がありました。3シーズン目(2014秋-2015春)は降り立つも産卵はせず、飛来した数も減ってしまいました。4シーズン目(2015秋-2016春)は1ペアの産卵がありましたが、ヒナの誕生には至りませんでした。それでも降り立つ鳥の数は回復していたので今シーズンへの期待が高まっていました。

そして5シーズン目(2016秋-2017春)。順調に降り立った中から8ペアの産卵が確認されました。そしてその内の3ペアからヒナが誕生しました。クロアシアホウドリは卵を1つしか産まないの、3ペアからそれぞれ1羽ずつのヒナ、計3羽のヒナが誕生しています。しかし、調査を続けている鳥獣保護管理員の森さんによると、残念ながらその内の1羽は姿が見えなくなってしまったとのことでした。

2月16日に調査で上陸しましたが、残りの2羽は元気でした。しかし、ヒナのいる巣の近くで2羽のハシブトガラスが様子をうかがうように、行ったり来たりしているのが気になりました。上陸中に、最大で15羽の成鳥が降り立っている姿も確認しています。

ヒナは誕生しましたが、この先無事に成長し、八丈小島から飛び立つまでには、まだいろいろな困難がありそうです。**ガンバレ！クロアシアホウドリ！**



「アカコッコ」は日本固有のヒタキ科(旧ツグミ科)の鳥で、国の天然記念物に指定されています。八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

講演会「西之島☆噴火始末記」

2月11日、森林総合研究所の川上和人氏を講師にお招きし、講演会「西之島☆噴火始末記～鳥がいなければ、島なんてただの山～」を開催しました。講演は「西之島：噴火による生物変化」「海鳥の機能」「海鳥の保全」から構成されていました。

「噴火による生物変化」では、2013年11月、西之島の南南東で噴火が始まり新たな島が誕生。そのまま溶岩が西之島を覆い、元の西之島（旧島）は0.5ha残すだけとなってしまいました。川上さんはその旧島への上陸調査を行ったそうです。上陸するにあたっては外来種の持ち込みを防ぐため、装備は新品、持ち込むものはクリーンルームで準備、船からは荷物ごと全身を海に入ってから上陸する「ウェットランディング」をしたそうです。調査は二日間の予定が海況が悪く一日だけになってしまいましたが、以前は6種あった植物が3種になっていたこと、アオツラカツオドリが繁殖していたこと、オナガミズナギドリの巣穴が掘られていたこと、カメムシ・ハサミムシ・クモの仲間やガの幼虫などの生きものも確認できたそうです。そして、噴火から上陸までの空白の3年間も上空からの画像や映像から、鳥たちが繁殖を行っていたことが分かったそうです。噴火による火山ガスが出ていなかったことで生きものが生き続けられたとのこと。さらに驚くことに、アオツラカツオドリの営巣数は噴火以前よりも増え、カツオドリの営巣数もすでに回復傾向にあるということです。オナガミズナギドリは穴を掘る場所が少なくなったことなどから、巣穴はあるが繁殖個体は未確認だそうです。アジサシ類は繁殖をやめていたが、後日、海上保安庁が上陸した時の映像からクロアジサシの繁殖が確認されたそうです。

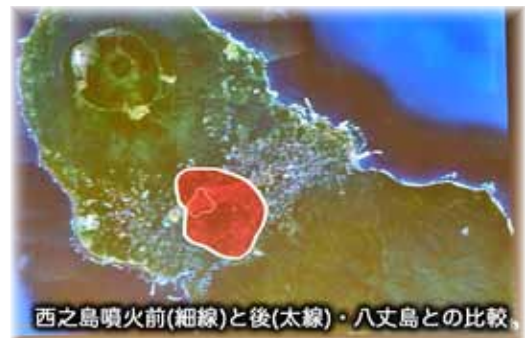
「海鳥の機能」では、海鳥が高密度・広範囲に集団繁殖することで、糞などによる栄養塩の供給や羽に着いた種子を散布する機能、捕食者への食物供給など、新たな陸地へ有機物を運ぶ役割があるということ。島では海鳥が生態系の運命を決める役割を担っている重要な生きものであるということです。

「海鳥の保全」では小笠原諸島においてノヤギの駆除を行ったことにより海鳥の繁殖は回復したが植物やネズミなどの外来種が増えてしまったこと。複数の外来種がいる生態系の管理の難しさ、対立関係の整理や分類群ごとの対策が必要だということでした。

八丈小島もノヤギがいなくなり、クロアシアホウドリが降り始めたが、ドブネズミの監視が必要不可欠になりそうです。



講演会の様子：西之島の位置と八丈島



西之島噴火前(細線)と後(太線)・八丈島との比較



西之島で繁殖していた海鳥(8種)



小笠原諸島のノヤギ駆除とクロアシアホウドリ

シロエリオオハムは初記録！

1月31日の朝、八重根漁港にしてみると港の中央に鳥が1羽浮いていました。ウミウだろうと双眼鏡を覗くとアビの仲間！今シーズンは神湊漁港でオオハムが何日も滞在していたので、島の反対側までやって来たのかと思いましたがちょっと違う？よく見てみるとくちばしが少し短く、首の背面が白っぽく、喉の辺りが少し黒く見えました。この特徴から「シロエリオオハム」である事がわかりました。八丈島ではアビの仲間はあまり見られず、ビジターセンターが作成しているリストでは、八丈島初記録となっています。これでアビ目はオオハムと2種になりました。



2017年1月31日 八重根漁港

八丈植物公園季節調査会の報告

八丈ビジターセンターでは、毎月第二日曜日に、植物公園の生きもので季節を感じようという趣旨で、「八丈植物公園季節調査会」を開催しています。毎回見られる植物がどのように変化していくか、また、どんな鳥や植物が見られるかも観察しています。今回は2月12日に行いました。

八丈植物公園季節調査（平成29年第2回）参加者：沖山美、青木、金田、VC 菊池

NO.	和名（島名）	状態	NO.	和名（島名）	状態
草本			木本		
1	アオノクマタケラン	実が残る	1	アオキ	実と実の虫こぶ
2	アシボソ	実が残る	2	イヌビワ	実
3	イヌホオズキ	花と実	3	オオムラサキシキブ	実と冬芽
4	ウスベニニガナ	花と実	4	ガクアジサイ	実
5	ウラジロチチコグサ	ロゼット	5	キヅタ	実
6	オオアレチノギク	花	6	トベラ	実
7	オオシマカンスゲ	花	7	ヒサカキ	咲き始め
8	オニタビラコ	花と実	8	マサキ	実
9	キュウリグサ	花	9	マンリョウ	実
10	コナスビ	花	10	モチノキ	咲き始め
11	シマテンナンショウ	花	11	ヤツデ	実
12	ススキ sp.	実が残る	12	ヤブツバキ	花
13	スズメノカタビラ	花			
14	タケダグサ	花と実	シダ植物		
15	タネツケバナ	花と実	1	アラゲヒメワラビ	
16	ツルソバ	花	2	イノモトソウ	
17	ツワブキ	実	3	オオイタチシダ	
18	トキワハゼ	花	4	オオタニワタリ	
19	ノジスミレ sp.	花と実	5	オニヤブソテツ	
20	ハキダメギク	花と実	6	シチトウハナワラビ	栄養葉のみ
21	ハナイバナ	花	7	タチクラマゴケ	紅葉
22	ヒメクグ	実	8	タチシノブ	栄養葉
23	フウトウカズラ	実	9	ナチシケシダ	
24	ベニバナポロギク	花と実	10	ノキシノブ	
25	ヘビイチゴ	花と実	11	ハチジョウカナワラビ	
26	ホトケノザ	蕾	12	ハチジョウシダ	
27	ムラサキカタバミ	花	13	ヒトツバ	
<p>今回はシダ植物 18 種を含む 57 種の植物を観察しました。気温は摂氏 8 度前後で北西の季節風が強く、すっかり冬枯れの植物公園ですが、カラスバトやキジバトの囀りが聞こえ、春の兆しも感じられました。</p>			14	ホシダ	
			15	ホラシノブ	
			16	マツザカシダ	
			17	マツバラシダ	孢子囊
			18	マメツタ	

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、八丈島近海でも見られる「オオミズナギドリ」にスポットを当ててみたいと思います。



オオミズナギドリ *Calonectris leucomelas*

ミズナギドリ科の海鳥。日本のミズナギドリ科では最大。繁殖は森の中に穴を掘って行い、繁殖期以外は海上で生活しています。

以前は八丈島でも繁殖していましたが、現在は確認されていません。八丈小島では現在も繁殖しているようです。11月下旬頃になると港などの灯りに誘われ若鳥が降りてしまい飛べ立なくなって保護されることがよくあります。

2017 八丈ビジターセンター 3 プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、八丈島（神湊）の潮の満ち引きの時刻です。左側が満潮時刻、右側が干潮時刻です。また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
	 この色の日は ガイドウォークや 特別行事があります		1 07:03 00:37 19:03 12:58	2 07:30 01:12 19:49 13:37	3 07:58 01:45 20:42 14:21	4 ガイドウォーク 08:26 02:20 21:49 15:13
☾ 啓蟄 5 ガイドウォーク 08:58 02:56 23:37 16:20	6 09:41 03:47 17:50	7 02:15 06:08 11:19 19:26	8 03:29 08:45 13:29 20:39	9 04:06 09:39 14:48 21:32	10 04:36 10:16 15:43 22:15	11 ガイドウォーク 05:03 10:47 16:28 22:51
☉ 12 ガイドウォーク 植物公園 季節調査会 05:28 11:17 17:08 23:24	13 05:51 11:45 17:46 23:55	14 06:13 12:14 18:21	15 06:34 00:23 18:56 12:43	16 06:56 00:51 19:32 13:13	17 07:19 01:18 20:11 13:45	18 ガイドウォーク 07:42 01:45 20:55 14:21
☾ 19 ガイドウォーク	春分 20 ガイドウォーク 08:33 02:45 23:40 16:03	☾ 21 09:08 03:34 17:30	22 02:05 06:08 10:34 19:09	23 03:04 08:31 13:08 20:20	24 03:37 09:16 14:27 21:10	25 ガイドウォーク 八丈学講座 「春の植物観察会」 04:05 09:49 15:20 21:52
☉ 26 ガイドウォーク 特別行事 「植物公園でお花見」 04:32 10:19 16:06 22:30	27 04:59 10:51 16:50 23:06	☉ 28 05:27 11:25 17:34 23:42	29 05:55 12:00 18:19	30 06:23 00:18 19:05 12:37	31 06:51 00:53 19:55 13:17	

イベントプログラム

植物公園季節調査会	植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化を一緒に感じましょう！ 3/12（13:30～ 約1時間半） 中学生以上 ビジターセンター集合・解散 無料 定員：15名
八丈学講座 「春の植物観察会」	毎月行っている八丈学講座。今月は、和泉親水公園やホテル水路周辺で春を探します。 3/25（13:30～ 約1時間半） 中学生以上 和泉親水公園駐車場集合・解散 参加費：50円 定員：15名
春の特別行事 「植物公園でお花見」	今年もオオシマザクラの下でクッキー&お茶でお花見をしましょう！太鼓もあるよ！ 3/26（13:30～ 約1時間半） 植物公園サクラ広場（日本の森）集合・解散 小学生以上（小学生は保護者同伴） 参加費：200円 定員：15名

ビデオプログラム

10:00～	八丈・海・生きものたち
11:00～	おじゃりやれ 八丈島
14:00～	おじゃりやれ 八丈島
15:00～	おじゃりやれ 八丈島
16:00～	八丈・海・生きものたち
上記以外での上映は予約にて可能です	

東京都八丈ビジターセンター	2017.3.1 第190号
開館時間 9:00～16:45 年中無休（入場無料）	
〒100-1401	
東京都八丈島八丈町大賀郷2843	
電話：04996-2-4811 Fax：04996-2-4888	
E-mail：info@hachijo-vc.com	
http://www.hachijo-vc.com	

編集後記

航路の橘丸では海鳥やクジラ類を探す楽しみがあり、空路の飛行機では伊豆諸島の島々を眺める楽しみがあります。船は船内で移動できますが飛行機の場合はそうはいきません。飛行機の席は、羽田からは右側の窓、八丈島からは左側の窓がオススメです！（高）